



国際ロータリー第2800地区

会長 加藤 功
幹事 富樫 松夫

鶴岡ロータリークラブ

例会日：毎週火曜日 午後12:30～1:30
例会場：鶴岡市錦町 東京第一ホテル鶴岡
事務局：鶴岡市馬場町11-63(産業会館3F) TEL 0235-28-3375

超私の奉仕

第2290回 例会会報 平成17年10月25日(火) 晴(本年度 第16回)

会長報告

加藤 功

私は、「職業倫理」を農本思想の面から学ぶために、歴史上の人物として、前回二官金次郎(尊徳)を取り上げた。庄内地方には、戦前戦後にかけて農本思想では、菅原兵治、加藤完治、石原莞爾という3人が大きな影響力をもっていた。

菅原兵治は終戦直後「東北振興研修所」を設立して生涯を(教)郷学振興に捧げ、庄内松柏会の会員に感化を与えた。加藤完治は山形県立自治講習所の初代所長となり、大高根農場の開墾を自ら実践、指導し、独自の教育方針で中堅農業関係者を育成した。産業組合青年連盟の若者たちに影響を与えた。石原莞爾は軍人として独特の「世界最終戦争論」を唱える。退役後、民間人として、東亜連盟運動を推進した。東亜連盟庄内支部の会員に大きな影響を与えた。

今回は石原莞爾について述べる。1889～1949(明治22～昭和24年)山形県鶴岡市生まれ。陸軍軍人。思想家。国柱会の熱心な信者である。陸軍士官学校、陸軍大学校を卒業(大尉)。ドイツに留学し、軍事史を研究した後(少佐)、法華経、日蓮信仰とも結びついて、世界的な規模の徹底的な破壊ののち、人類は統一され天皇中心の平和にいたるという、独特の「世界最終戦争論」を構想する。その構想に基づき満州事変を立案、実行、成功に導く。仙台第4連隊長を経て、1935年参謀本部に入り(作戦課長、大佐)、1936年二・二六事件の鎮圧に活躍する。(作戦部長、少将)しかし、盧溝橋事件以降の日中戦争拡大阻止(不拡大派)に失敗し、関東軍に転じるが、東条英機と対立し、1939年京都第16師団長を最後に軍職を離れ、民間人として、東亜連盟運動を推進する。戦後、GHQからの指令により解散させられるまで、活発に活動する。晩年は、極東国際軍事裁判酒田出張法廷にも証人として出頭したりもしたが、専ら庄内(遊佐町)の西山農場にて同志と共同

生活を送った。

「昭和の陸軍の歩みを考察するに当たっては、石原莞爾の存在を度外する訳にはいかない」(角田順)、また、「彼の最終戦の回避と非武装中立の保障こそ、西欧的覇道と違った価値に立つ東洋的王道に基づく新しい東亜連盟の結成だったのである。」(佐治芳彦)

東亜連盟の建設方式は、「…各地方の食糧生産力に応じて全国農村に分散し(都市解体)、今日の部落程度の広さを単位として村を構成し食糧を自給しつつ(国民皆農)、工業その他の国民職分を担当する、所謂農工一体の体制である。…各農村は組合組織を紐帯として今日の家族のごときも一個の共同体となり、生産も生活もすべて村中心に行う。これが新時代における国民生活の原則たらしめるべきである。」そのためには、「社会制度の革命なしには不可能である」と言っている。

(東亜連盟運動の指導原理 昭和24年7月、8月15日死去))

現代では、「官から民へ」「中央から地方へ」特区による「農村工業の振興」などが政治課題になっている。農工一体などは農村工業の振興を図る上で学べるべき考え方である。

いずれにしても、都市解体、国民皆農、農村生活共同体の考え方は独得の農本思想として評価されると思われる。

インターナショナル・イン・台湾

鶴岡RAC 小野寺 志津香



こんにちは。日頃より大変お世話になっております。8月3日から台湾で「リーダーシップ&フレンドシップ」をテーマに開催された国際ライラに3泊4日、米沢RAC2名、鶴岡RAC2名計4名で参加して参りました。国内外19カ国、約250人が参加しておりました。

ロータリー青少年指導者養成プログラムライラは、若い人々の指導者及び善良な市民としての資

自分にも出来る温暖化防止

ストップ! アイドリング

質を伸ばすことを目的として、14～18歳、19～30歳までの2グループのプログラムがあります。その中心主題は下記のとおりです。

1. 指導力の要請
 2. 建設的指導力の倫理規範
 3. 効果的指導力における伝達力（コミュニケーション）の重要性
 4. 問題解決と紛争管理
 5. ロータリーとは何か、ロータリーは地元地域社会で何をしているか
 6. 自信と自尊心を培うこと
 7. 地域社会の市民であり、世界の市民であるという要素。併せて地元に関連があり、地元の習慣に相応しい方法で遂行されている問題の考察
- 会場に到着するとチームに分かれ、地元ローターアクターが1チームに男女一人ずつカウンセラーとして参加していました。気持ちを一つにし、テンションを上げる時や、基調講演者が登壇する際にする声援、CHEERの練習をしました。参加者・スタッフがひとつなり行うCHEERはとても迫力があり、お聞かせできないのが残念です。

自己紹介を終えてから各チームでリーダーを決め、チーム旗を作成し、チームごとのCHEERを作りました。その後参加したウェルカムパーティーには民族衣装で参加している方も多く、チマチョゴリを着ている方、当地区からも着物で参加した方もおりました。台湾で人気のバンドの演奏や、ダンス・ゲームで交流を図りました。

二日目の開会式のチーム紹介では、前日作ったチームCHEERを壇上で披露。終了後、アジアでトップ3に入るパソコンメーカーACERに会社見学と基調講演がありました。

三日目、チーム活動の夕べでは各チームで歌ったり、寸劇やダンスを行いました。ここで参加していた日本人17名で急遽「ふるさと」を歌ったり、三三七拍子をしました。故宮博物館の見学の後、シカゴのバスター会長マーク氏よりポールハリスについて、またロータリー設立の経緯の講演がありました。次に、台湾市長マー氏よりこれからの台湾の環境や教育問題についての講演がありました。彼が就任後、台湾の街並みは変わり、ビルが建ち、夜には清掃車がでるのでゴミが減り住みよい環境になったそうです。実行力があり大衆から指示される台湾市長に、時間切れで質問できない参加者もいました。

反日活動が報道されている昨今、参加するのに少し不安がありましたが、とても親日的で流行の話やアクト活動について意見交換もできました。

このライラでは国も体にハンディの有無に関係なく人間同士のつきあいなのだと実感しました。だからこそこの関係を国同士でも反映したいと強く願います。言葉の壁はあったものの、チームごと行動も宿泊も一緒に、団結力も強くなり、はじめあった不安も消えていきました。「あなたは今まで台湾には友達が居なかったかもしれないけど、今たくさんの親友ができたんだよ」「大学の選択科目を迷っていたけれど、あなたと話せるように日本語を勉強する」と言ってくれたチームメイトもいてとても嬉しかったです。今でもメール交換をしています。チームのリーダーだった台湾大学の院生クリス君は9/23より一年半兵役に行きました。彼の夢は日本で国際弁護士になることだそうです。そんな彼らの前向きさに私も刺激され、自己の向上に努めたいと思いました。また、カウンセラーのローターアクターよりリーダーシップの取り方を学びました。

参加して得たものは言葉で伝えるのが難しいのですが、参加して、見て、聞いて、体験してみるのが一番です。是非このような機会をより多くのローターアクターに経験して頂きたいと思います。

最後に、国際ライラ参加にあたりご尽力頂きました提唱ロータリークラブの皆様にご場をお借りして御礼を申し上げたいと思います。この経験をもとにローターアクトクラブでしかできない活動を広くPRしていきたいと思いますので宜しくお願い致します。

委員会報告

●出席委員会

委員長 阿蘇司朗

本日の出席		前々回の出席	
会員数	46人	出席率	75.56%
出席数	30人	修正出席数	35人
出席率	66.67%	確定出席率	77.78%

●メイクアップされた方

藤川享胤君・塚原初男君

●ビジター

小野寺志津香（鶴岡 RAC）



富樫松夫君 ○小野寺さん、インターナショナル、ライラ・イン・台湾の報告有難う。これからの活躍を祈念申し上げます。

榎本政樹君 皆様のご支援により無事合格することができました。心より感謝申し上げます。鶴岡市の発展に微力ですが全力で取り組んでまいります。